

桜の花びらの舞う春の今日の良き日、大阪府立日根野高等学校第39回入学式を挙行いたしましたところ、ご多用中にもかかわらず、多くのご来賓、保護者の皆様方のご臨席を賜り、本当にありがとうございます。高いところからではございますが、教職員一同を代表して厚く御礼申し上げます。さて、ただいま入学を許可いたしました234名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは今日晴れて私たち日根野高校の仲間入りをするようになりました。私たち教職員一同、また皆さんの先輩となる在校生は、皆さんの入学を心待ちにし、歓迎をいたします。

そして、今日この人生における新たなスタートの日に、私から二つのことを皆さんにお願いをしたいと思います。

今皆さんは、高校入学という一つの扉を潜り抜け、ほっと一息をついているところかと思います。しかし次の人生における大きな分かれ道は3年後すぐそこに存在をしています。

皆さんにとって時間に限りがあることをイメージすることは難しいことなかもしれませんが、しかし、時間は有限であり、今も刻々と流れ続けています。そしてその時間の流れは生涯を通じて均一なものではなく、時に濃厚な日々を迎える期間があります。それがまさに今皆さんが迎えている本校での3年間に当たります。今の皆さんは、心も体もそして学力の面でも最も成長をすることのできる大切な時を迎えています。この大切な時間を無駄にすることなく日々を過ごしてほしいと思います。

そんな皆さんへの私からのお願いのまず一つ目は、しっかりと目標をもって、努力を重ねる毎日を送ってほしいと思います。「千里の道も一歩から」という言葉があります。どんなに遠い、高い目標であってもそこにたどり着くためには着実に一步一步、歩みを進めるしかないということです。何もしないにもかかわらず向こうから勝手に目標や夢が近づいてくることは決してないのです。今日のこの記念すべき日に、3年後自分がどうありたいのかをイメージしてみてください。そしてそのなりたい自分になるための努力を今日から始めてみてください。

「人生は重き荷を背負いて遠き道を行くがごとし」戦国武将の徳川家康の言葉とされています。生きるということは、重たい荷物を常に背負っているような大変な状態で、一步一步長い道のりを歩き続けるようなものだということです。努力を続けていくことはとても大変なことです。しかしその大変さを普通の状態としてとらえ、行動できるかどうかが人の成長の大きなカギとなります。目の前に広がる坂道を一步一步高みをめざして上り続けていきましょう。そうすることで見える景色は広く美しく、きつとなりたい自分の姿もがそこに見えてくることでしょう。この3年間、ぜひ目標を持って努力を続けていってほしいと願っています。

お願いの二つ目は、人生の宝物となるようなそんな人間関係を作ってほしいと思います。今や人生は100年といわれる超長寿社会となりました。その長き人生を送るうえで、ともに歩む人の存在はより一層重要となっています。人は決して一人では生きてゆけない生き物であると思います。うれしい時、楽しい時に一緒に笑ってくれる人の存在、また、悲しい時、心穏やかにいられないときに寄り添ってくれる人の存在は、何物にも代えがたいものとなります。

そんな人生を共に歩んでくれる友達、仲間、パートナーとの出会いは、もちろん人生の様々な場所に存在をしています。しかし、その機会もまた均一に存在するのではなく、まさしく皆さんが今迎えている思春期に濃く、たくさん存在をします。この日根野高校での3年間でたくさんの人と出会い、かわりを持ってください。そしてその意味で特におすすめをしたいのがクラブ活動になります。一つの共通する価値観の下、3年にわたって、喜びも悲しみも共にするこの人間関係は、まさしく人生の宝物となるに違いありません。今までの経験の有無にかかわらず、興味のあるクラブの扉をぜひたたいてほしいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様方、改めまして本日はおめでとうございます。今日からの3年間、お子様を大切なお預かりをさせていただきます。子どもの成長には、家庭と学校の緊密な連携が不可欠となります。本校の教育活動にご理解をいただき、ご支援賜りますようお願いいたします。

さあ、新入生の皆さん、新たな冒険の幕は今切って落とされました、皆さんの前には可能性という大きな世界が手を広げて待っています。ためらう必要はありません。自分を信じて挑戦をしていきましょう。皆さんの日根野高校での3年間で充実したものとなることを祈念して式辞といたします。

令和7年4月8日 大阪府立日根野高等学校 校長 山本 好男